

今日のわだい

- [1面] 全厚労第34回女性集会
平和であることが原点
- [2面] 大震災・その時わたしは③
- [3面] 浅草戦跡フィールドワーク



全 国 労働組合連合会
 厚生連
 〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5
 TEL 03-3874-3591
 FAX 03-3874-3593
 発行日 毎月 20日
 定 価 30円

三人寄れば「もんじゅ」の知恵と語ることの大切さを話された小森陽一先生



時に笑いあひの講演(詳細は次号)に引き込まれた参加者一同

9日に警戒警報がなつて台所の床下に掘られた防空壕に隠れましたがなかなか解除されず、敵機襲来となれば空襲警報が出るのですがそれもなかった。我慢できなくなつてちよつと外の様子を覗いてみると真っ赤に染まった景色とガヤガヤ人の声。父が戻つて来て「ここは危険だから駅前まで逃げよう」と

ちよつと中腰になつたおばあさんが風であおられて、火だるまになつて飛ばされていく状況に、息子さんは小さい孫を抱き抱えて「お袋ゆるしてくれ、ゆるしてくれ」と叫んでいました。その当時はもう仕方がない...と思つていたことですが、戦後になつて自分の子どもが生まれてから、大変だったんだ、あのおばあさんかわいそうだったと感じるようになりまし。その話を小学校の子どもさんに

「お国の為」「勝つまで我慢」と覚えこまされてきました。「ああいう経験は繰り返してはいけない」と真剣に伝えていく事が大切だと思つています。(秋田)

自由に、笑いながら、元気に語り合うことが平和への一歩

全厚労第34回女性集会

6月10日(金)〜11日(土)に浅草「台東区民会館」にて第34回女性集会を開催しました。「健康にやさしく美しくいきいき働き続けるために」をメインテーマに16県1組織から146名の参加がありました。

開会に先立ち、「どうするアンボ」を上映。また、クミコのINORI祈りを聞きながら千羽鶴を折りました。渡辺執行委員長は開会のあいさつで「9条と25条は双子の関係であり、医療福祉を大切にすることが戦争を止め、平和に向かつていく事になる。逆に軽視される時は平和の危機であると受け止めて平和の問題、医療・社会保障を守る取り組みを頑張つていこう」と訴えました。



大空襲のツライ記憶を語っていただいた中川文子さん

折笠女性委員長は「今回、女性委員会の一致で平和を考えようと言ふことになりました。原発事故が起こり、平和とは何か、戦争とは何か考える機会になれば」と集会の目的を話しました。

私は東京大空襲があつた1945年3月10日、亀戸駅近くの小さな町工場や木造の長屋がズラツと立ち並ぶ地域に、母や妹は新潟に疎開して父と二人で住んでいました。

燃えるリユックや防災頭巾を捨てて、屈みこんで火が燃え尽きるのを待つしかなかった。ちよつと中腰になつたお

「お父さんは悪くない」誰が悪いか?と聞くと「戦争」と答えてくれました。中川文子さんと答えていくと分かってくれる。「絶対戦争はしないようにしなくちゃね」としつかり語り伝えていく事が大切だと思つています。火葬場も何もかも焼けて処理ができないというところで一度仮の埋葬を行ったのですが、トラックに何人もの遺体を乗せ、スコップでコークス(石炭燃料)を投げ入れるように扱われる姿に「かわいそう」という感覚は湧かず「そういう状態だから仕方がない」とぼろぼろと思つていました。

●遠かった戦争の話とタイムリーな原発の話と合わさつて普通の生活ができていた幸せを強く感じました。平和な日々を守つていくために私たちにできることを今こそ考え実行していくべきだと強く思いました。今回の企画は今までで一番良かったと思つています。(秋田)

●語り合うことの大切さを感じられる分散会でした。自分の意見を述べることで誰かが応えてくれる、その積み重ねで私たちができることやるべきことが見えてくる貴重な時間となりました。(茨城)

●浅草の戦跡も説明を聞きながらためになりました。グループワークも色々な話を聞けて考えるいい機会になりました。(三重)

戦争体験・東京大空襲 平和の語りべ 中川文子さん

大きなリユックを背負つて家を出ました。駅前の広場へ出ると人がたくさん集まつてきていました。そこから川の方へ逃げようとしたのですが、頭上には手を伸ばしたら火にのまれるほど渦巻いていて、燃えるリユックや防災頭巾を捨てて、屈みこんで火が燃え尽きるのを待つしかなかった。

できるのかの意見交流を行いました。集会のまとめでは職場に戻つた時に集会を通して心にとめた事、見たこと、聞いたこと、感じた事を一人でも伝えたい事があり、戦争だけでは体験してはいけないと語り継いでいくことが大切だということが出されてきました。職場や家庭でまず一人に伝えることを誓い合つて集会を終えました。

●憲法があつても被災により第13条・22条・25条が守られなくなつていく。守れるように一日も早くなつてほしい。アメリカの考えられていることや国の裏話なども聞けて勉強になった。どうして偉い人は自分の利益しか考えないのだから。JINのドラマのように武器で人を殺すのではなく、ドラマの坂本龍馬のように世界を仲良くしてほしい。(福島)

●戦争体験(空襲)の話を通じて聞くのは初めてでした。私にとつてシヨックでした。9条を守つていけるよう私たちは頑張つていかなくてはならないと強く思いました。(茨城)

●中川さんのお話を聞いて情景が目に浮かぶようになりリアルなお話で「過去の悲惨な経験があつて今日の平和があるんだ」と言ふことの意味を実感しました。(県不明)

参加者の感想 集会アンケート

記念講演

憲法と私たちのいま・未来

平和の語りべ

東京大空襲

大震災—その時わたしは3

松崎 純子 (福厚労双葉分会長)

3月14日夜

まだ患者さんが残っているため、今まで自分たちの今後のことを考えられる余裕がなかった。しかし、翌日中に患者さんの搬送が終了するとの報告が入り、スタッフのそれぞれが「明日解散になったらどこに行こう」とやっと自分たちの身の振り方の話ができ、翌日中に施設を出るといふ人も多くいた。このころには、毎日除線をし、施設空間内の線量も減って、ある程度自由に行動できるようになっていた。

また私も、川俣にいるYくんより「翌日朝一番で身内が迎えに来るから、その時一緒に会津に行こう」と誘いがあった。私も施設を出るつもりだった。みんなやっと自分たちの話をしていった。事務部長が看護副部長のところに来た。「1台目のバスの行先がわかった。浪江町のオンフルール(老健施設)にまだいるようだ。だから連絡が取れなくなっていた。患者さんがオンフルールにいる。」と話していた。みんな、言葉が出なかった。少したって看護部長より「当院の患者さんがオンフルールにいるとわかった以上、悠長なことを言っていられない、すぐ迎えに行く。その場合、夜中に到着する可能性がある。もちろん当院の患者さんは



避難所でも医療活動が続ける双葉の組合員たち

にこの施設を出るといふ人が何人もいた。やはり、将来のことを考えるとこれ以上の被曝は避けたいとのことだった。私も痛いほど気持ちが悪かった。「もう充分私たちががんばったよ。本来、今までもそうだが、被曝医療になるので、私たちがする領分ではなく、専門スタッフが入ってくるべきもの。ほんとは、出入り口で防護服来て『ここから出るな』とか言っていた医療チームがやるべきこと。今帰っても、ここまで頑張ったんだから誰も文句言わない。出られる人は出た方がいい。私たちに何の防護服もないのだから」と言った。また、医師の多忙さも心配だった。これ以上業務が伸びれば、先生の体もたないと思った。

その後、再度ミーティングがあり、看護部長さんには「この状況は、スタッフを強制的にひきとめるのに相当過酷な状況で、なんの装備もない中だし、無理な帰してあげてほしい」と発言した。看護部長も連日の調整で率先して動いており、今回も夜になってからの出来事にも関わらず、出来るだけのことをしていくと承知していたが、目に見えない放射線に対する不安とそれに対する対策が行き当たりばったりで、無防備な

状態でも今後も業務にたずさわることへの不満が出ていたようだった。私も「被曝医療を専門的に行える人が、なぜ来ない。一番最初に被曝者13名と報道があった場所なのに。」と思っていた。

その時、「川俣から5人応援に来ました。」と報告があり、入口を見ると、ついさつき電話で「先に会津に帰って」と伝えていたはずのY君も来てくれた。川俣からのスタッフが入り、患者さんを2階に移動した。移動後、休憩している間に10人のスタッフが施設から出ていた。みんな、泣きながら出たとのことだった。

3月15日

朝、本来夜勤だったスタッフがでてしまったため、残っていた1人のスタッフが患者さんを見ていたと聞き、早めに動き始めた。夜中のうちに自衛隊の人数が増え、朝になると自衛隊バスが2台入ってきた。ミーティングが始まった。

本日の予定が説明された。そして、看護部長より「看護スタッフは川俣から5人応援に来て、10人が施設を出ています。」と話があった。技術スタッフからは、「行くところがない人が、大変な思いをしるということか」との発言が聞かれた。その人の気持ちもわかる気がしたが、それ以上に、これからのことがとても不安だった。

ミーティングの最中、部長の所に電話が入った。「オンフルールの患者さんは那須に向かいました。」突然の知らせで驚いたが、ちょうど国より、県内の避難所はいっぱいになったため、県外への避難誘導指示が出たとのこと。そのため、本日の搬送が終了したら、解散ということになった。本日解散となっても、衣類が。と思っていたところ、本日も折笠さん・長谷部さんがちょうど欲しがっていた衣類を持ってきてくれた。靴まであり、まるで本日の解散を知っていたかのようなだった。カップラーメンにしてもそうだ。みんななぜか塩分が足りなかったせいなのか、カップラーメンを食べたがっていた。そして、一斉に食いついていた(笑)。組合って組織なのに何でこんなに動けるんだらうとあらためて実感した。

取れるように、放射線科のT君が物資の管理をしてくれた。T君は被曝しておらず、ガソリンもない中、避難してから毎日実家から二本松に来てくれて、いつも「何もできないけど」と言いながらも私たちのことを心配し、朝から夕方までいてくれた。本日予定となっていた搬送がはじまった。看護職員が減ったため、医師が直接病院に連絡を入れ、救急隊にはカルテと情報だけ伝え、患者さんだけの搬送となった。

最後に搬送する患者さんの病棟看護師が救急隊に申し送りをする時、一人一人搬送先の病院で安心して療養できるように願いを込めながら「お願いします」と送り出した。最後の患者さんは精神科の患者さんだった。しかし、今までの患者さんと違って避難生活や、辛かったことを思い出しながら、一般科のスタッフも一緒に見送った。感無量だった。ほとんどの職員が「お疲れさまでした」と泣きながら、あいさつした。搬送が終わってから、統括部長が施設に来てくれた。靴の支給をしてくれた。業務が終わわり、Y君のお兄さんが迎えに来てくれた。解散式の少し前だったが、みんなが集まったところで、「すみません。お先に失礼します。」とあいさつすると、看護副部長から、「双葉はすごい。こんな状況の中、ALSの患者さんまでみんなで助けなくちゃとがんばって搬送した。病院にいた人全員搬送してきただけで、誇りに思うよ。また、双葉再建するときはがんばろうね。」と言っていた。また涙が出てきた。

この日になると、施設外に出るのは簡単だった。川俣まで屋内退避となっていたほど、大気の被曝も進んでいたからだと思われる。走りながら車まで行った。やっと外に出れた。やっと終わった。その後、看護部長・副部長をはじめ、管理職のみならずと、一部の看護スタッフとで那須に行つたと思われた患者さんがいわきにいることがわかり、その患者さんへの搬送と確認のため、いわきへと向かい、全員の患者さんの所在確認をした。そして、今バラバラになっていた職員の仕事配に尽力を尽くしてくれた。患者さんの搬送にかかわった救急隊のみならず、自衛隊の皆さんにこんな混乱の中、被曝覚悟で携わっていただいたことに大変感謝している。しかし、忙しいさなかのことで、きちんとお礼もできないままになってしまったことが悔やまれてならない。今回のことで、組合の機動力の高さに驚いた。また一緒に病院で働いていたわけではないのに、心配して駆け付けてくれたことにも

でも心を打たれた。そして、勉強させてもらったと思う。災害時の対応は、マニュアル化されているが今回のことで、マニュアル通りに事が運んだことがなく、私たちが助けてくれたのは、時々かけてくれる上司の一言や、搬送先の看護スタッフからの温かい言葉と、組合員さんの行動してくれた気持ち、また支給品と共に添えてあったメッセージだったと思う。日頃から、「モチベーション・モチベーション」と労使委員会で話してきたことはただの精神論として扱われがちだったが、今回の様な危機的状況になった時こそ一番大切だということに身にしみて感じた。(自分ことだけを考えた場合、このままでできなかったと思われる。)そのモチベーションをくれたのが、気持ちの入った言葉だった。今回の経験を、消して無駄ではなかったと思えるように、今後、自分の行動に反映させていきたいと思いつつここに綴っている。(おわり)

3月11日の東日本大震災・原発事故から3カ月余りが経ちましたが、震災復興も原発事故の収束も未だ道筋が見えていません。政治も、被災者の事などそっちのけの政局に走っています。私たちの声をもっともっと強くしなければなりません。(編集部)

「言いたい劇場」

小菅りや子



夜勤から外して欲しいとお願いしたが産前休暇まで入ってほしいと断られた



本人から請求があればさせられません

にもかかわらず現状は日本医労連の看護職員労働実態調査では妊産婦の

母性保護のためには労働の負担を軽減する必要があることから、男女雇用機会均等法制定と同時に、妊産婦本人が請求した場合、時間外・休日労働の禁止と合わせて「使用者は、妊産婦が請求した場合においては、深夜業をさせてはならない(労基法66条の3)」と深夜業の禁止が規定されました。



！10クイズ！ 次の文章は正しいでしょうか？
母子健診のため早退を師長に話したところ「院内で受診して」と返事があった

よくわかる
労基法クイズ
第26回

職場で大切な権利をクイズ形式で学んでいきます

浅草戦跡フィールドワーク

第34回 女性集会

観光地だけではない浅草を巡って～

浅草寺とは

浅草寺の由来…

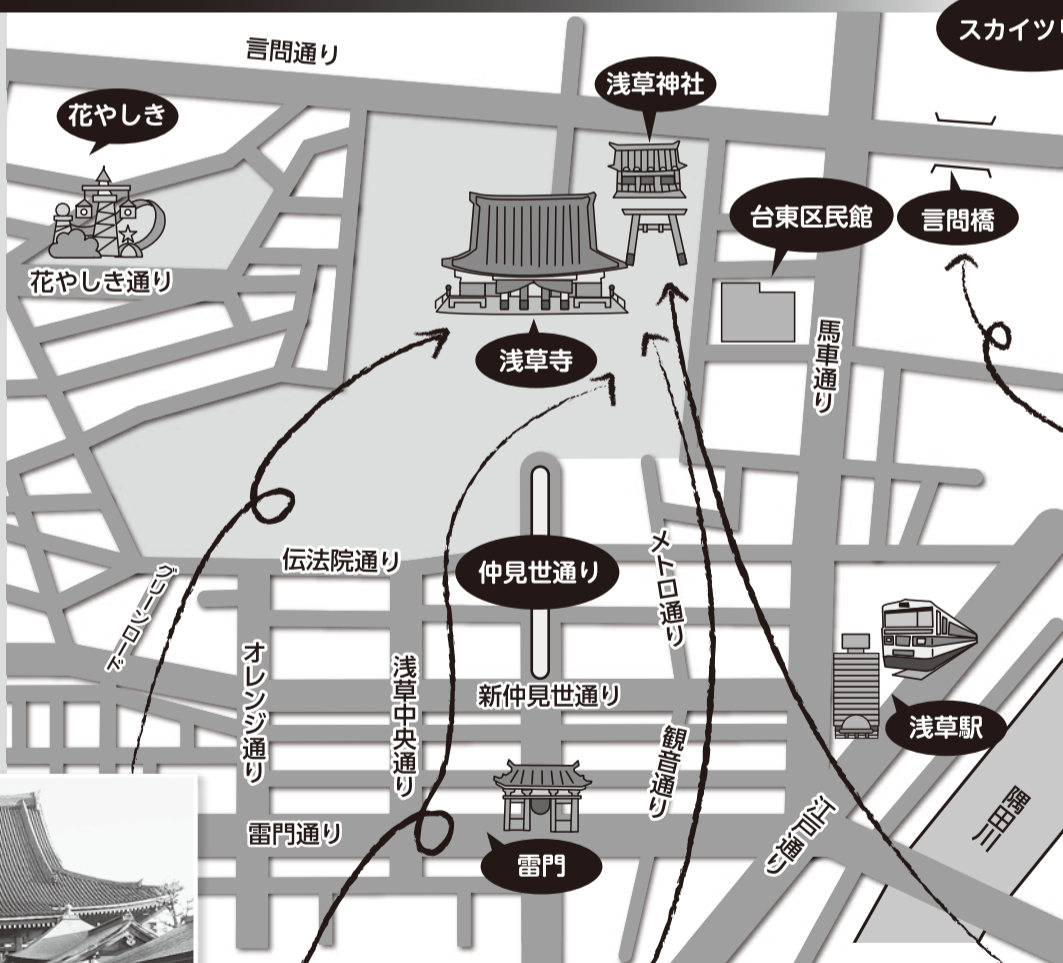
628年、墨田川下流で漁師の兄弟が投網の中から仏像を発見し、郷土の文化人に相談し建立したのが始まりと言われています。この三人は三社様と称えられ浅草神社に祭られています。

庶民のお寺…

大きなお寺でよくみられる立派な参道を持たない事が特徴で、肩肘を張らずに参拝できる庶民のお寺として親しまれてきました。

平和への想い…

浅草寺には戦争の惨禍と東京大空襲の犠牲を忘れないよう、様々な碑や像が文化人や郷土の呼びかけで建立されています。浅草寺はそれらの呼びかけに境内の土地を提供してきました。



スカイツリー

東京大空襲(1945年3月10日)で下町一帯が業火に包まれ、向島方面・浅草方面からたくさんの方が言問橋に殺到しました。人々がもみ合う中、炎が橋の上を駆け抜け、この一帯で7千人もの人々が亡くなりました。



母子地蔵

第2次大戦末期、中国東北部(旧満州)から逃避する中、亡くなった20万人以上といわれる人々の供養として漫画家9人が発起人となり建立されました。



被災イチョウ

境内には爆弾を受けたイチョウが10本前後あります。今もなお力強く葉をつけるイチョウですが、大きく開く裂け目の中は広く炭化しており、焼夷弾の威力を物語っています。



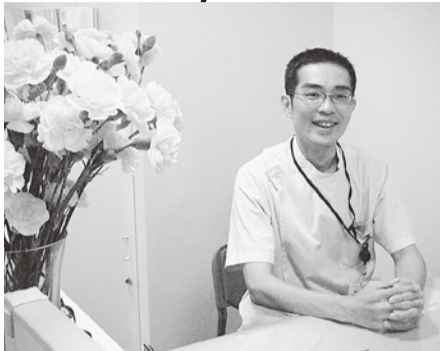
二天門

二天門にも炎が迫り、「二天門が延焼すれば目の前の消防署も焼け落ちる、消防署が焼け落ちれば東京の火を誰が消すのか」と夜通し消防署員の必死のバケツリレーがなされました。

帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第52回は愛知・大分をお願いします。

※左の花に大きな意味はありません。けして「おねえ」というわけでもありません。



愛知 榊原慎二さん

患者さんや家族に慕われ、上司やスタッフの間に立ち、日々様々なストレスと闘っています！
髪という大きな犠牲を払いながら…（涙）。
追伸：知多厚生病院マラソン部であいち健康の森24時間リレーマラソンに参加しま〜す!!

なんと！歌って！踊って！走れる？ソーシャルワーカー-!!
趣味はマラソン。走り始めて15年、最近ではランナースハイのその又向こう側が癖になっているそうです。今年こそはフルマラソン(?)への参加を目指して頑張っています。

最近の悩みは、年齢と共に薄くなってきた髪の毛…机の上に落ちていった長〜い友達を見つめながら涙しています。



大分 曾我泰裕さん

こんにちは、全厚労青年委員長・大厚労青年部青年委員長の曾我泰裕です。なんだかよくわからないうちに全厚労青年委員長になってしまいました。しか〜し、なったからにはみんなを「あっ」と驚かせる何かをしてでかして見せます。皆さん期待して下さいwでは〜〜

慶弔共済 医療連共催に感謝 秋厚労

秋厚労では昨年10月1日から医療連「慶弔共済」に10組織加入しました。以降約8カ月間で給付を受けた方は402人で給付金額が約162万円に上っています。もっとも多いのが「入学・卒業」で給付者の46%に当たります。



秋厚労では昨年10月1日から医療連「慶弔共済」に10組織加入しました。以降約8カ月間で給付を受けた方は402人で給付金額が約162万円に上っています。もっとも多いのが「入学・卒業」で給付者の46%に当たります。

秋厚労 慶弔共済の給付状況

(2010年10月1日～2011年5月16日)

単位 (人・円)	人数	金額
結婚	36	288,000
銀婚 (25年)	5	25,000
出産	25	75,000
入学・卒業 (小学校入学、中学入学・卒業)	186	465,000
退職	87	397,500
住宅火災	4	12,000
傷病	22	165,000
死亡	37	195,000
計	402	1,622,500

当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。(4月号の答え：ニューフェース)

ザ・クロスワード

出題 ●モロズミ勝

1 2 3 4 5 6
7 8 9
10 11
12 13 14 15
16 17 18 19
20 21 22
23 24 25
26 27

答 A B C D E F G

【問題】二重ワクの文字を、A～Gの順に並べてできる言葉は、なに？

■タテのカギ
1 津波のときの逃げ場
2 魚や野菜を酢みそであえた食べ物
3 虎の威を借る……
4 腹下しともいう
5 楽園。エデンの園
6 「土筆」と書いて？
7 麦の茎製。……帽子
8 商店のことです
9 地震などの被災者を助けるための寄付金
10 失業者向けの職業……
11 地球の衛星
12 ドイツの隣国
13 エジプトの首都
14 水上に浮かぶ……
15 鉛筆の中心部
16 ……より証拠

読者の声

自分も同じ福厚労で働く一員としてトップニュースを興味深く拝見しました。先週から双葉の方々が来て一緒に働いています。こんな素晴らしいことがあったとは感じさせず、笑顔で仕事に取り組んでいきます。まだまだ先は見えませんが今こそ力を合わせていきたいと思います。(福島)

福厚労の松崎さんの記事を引き込まれるように読ませていただきました。想像以上の苦労がおりだと思えます。(岐阜)

東日本大震災に対して各県の労組が活動していることを知りました。みんな頑張つて!!(岐阜)

私は看護学校に勤務しておりますが厚生連関係の看護学校で被災された所があるのでないでしょうか。情報がつかないでいます。情報があればご存知でしたらぜひニュースで教えてください。(富山)

地震によって被害にあつているスタッフの皆さん!とにかく元気で頑張つてほしい!みんなは一人ではない!!(静岡)

東日本大震災―医療現場を支える労働者―の記事を読みながら、今何を自分ができるか改めて考えています。(新潟)

震災からしばらくたつてまだ徐々に普通の生活のありがたさを忘れつつあります。普段の生活ができること、電気が使えるありがたさを忘れることなく感謝の心を忘れず生活していきたいものです。(岐阜)